

鹿児島島の昆虫 58

外来種に注意！！

昆虫担当 金井 賢一

外国産の外来種

1999（平成11）年にクワガタムシやカブトムシの輸入が規制緩和され、多種多様な外国産昆虫が手軽に飼育できるようになりました。今まで図鑑やテレビでしか見たことのなかった種を、間近に見ることができる驚きは、子供のみならず大人をも興奮させました。

しかし、それに伴い問題も起っています。日本の野外で、外国産のカブトムシやクワガタムシが採集されるようになったのです。

元々日本にいなかったクワガタムシなどが野外に放されると、3つの心配が生じます。

- ① 在来種と生活環境の奪い合い
- ② 雑種の形成
- ③ 病気の蔓延

どれも、今まで進化の歴史の中で、国内のカブトムシやクワガタムシが出会ったことのない脅威です。外来生物を野外に放すことは、日本本来の自然を不可逆的に破壊する可能性があるのです。



環境省のポスター

国内産の外来種

では、同じ日本の中ならば昆虫を移動させても大丈夫なのではないでしょうか？



店頭で販売される外国産昆虫

元々カブトムシのいなかった北海道ですが、現在ではほとんどの地域で確認されるほど広がりました。本州などから人が運び、逃げ出してしまったものです。在来のクワガタムシなどと樹液を争ったり、コガネムシなどと幼虫の食べる堆肥を奪い合っていることが懸念されています。

沖縄本島には、細く短い角をもつカブトムシ沖縄本島亜種がすんでいましたが、本土から持ち込まれた大きなカブトムシと雑種ができて、純粋な沖縄本島亜種が見られなくなりました。

このように国内の昆虫をヒトが運び、元々いなかった地域に放したものを、国内外来種といいます。「地域の川にホタルを復活させよう」「カブトムシやクワガタムシを販売することで利益が上がる」というような人々の活動で、本来昆虫の力では到達できなかったところへ運ばれます。そして野外に放すことで、予想もしなかった競争関係や雑種の形成などの問題が生じています。

この国内外来種を防ぐには、「運んだ昆虫は死ぬまで責任を持って面倒を見る」ということが必要です。特に夏休みは旅行先でカブトムシやクワガタムシを採集する機会もあるでしょう。夏休みの終わり頃に「かわいそうだから山に放してあげなさい」というのが、国内外来種を増やしてしまう原因です。最後まで、しっかりと飼育してあげてください。



採集された外国産ヒラタクワガタ